

拠点形成概要及び採択理由

機 関 名	東京大学
拠点のプログラム名称	都市空間の持続再生学の展開
中核となる専攻等名	工学系研究科都市工学専攻
事業推進担当者	(拠点リーダー) 藤野 陽三 教授 外18名
<p>〔拠点形成の目的〕 持続可能な文明社会を支える空間的実体としての「持続可能な都市空間」を形成・再生することは21世紀の人類最大の課題の一つである。本拠点は、21世紀COE「都市空間の持続再生学の創出」によって創設された国際的教育研究拠点を基礎に、持続可能な都市空間の形成・再生を導く新たな統合的知の体系「都市空間の持続再生学」を展開深化させると同時に、各国都市の教育研究機関・自治体等との国際的共同研究ネットワークを全地球レベルに拡充し、このような世界最高水準の教育研究環境において、国際共同研究等への主体的参画と分野横断的研究指導体制の下で、若手研究者が研究活動を遂行することを通じ、特定分野に関し高度な専門性を有すると同時に、都市空間の持続再生に関わる広汎な学術分野と多様な文化に関する理解力と調整統合能力を修得した国際的に活躍可能な研究者・専門家を育成し、もって世界の持続可能な都市の形成・再生に貢献することを目的とする。</p> <p>〔拠点形成計画の概要〕 21世紀COEにより創出された拠点の体制と成果を活かし、関係3専攻(社会基盤学・建築学・都市工学)の緊密な連携により、都市空間の持続再生に関する統合的な知の体系化を国際的共同研究等を通じて行うと同時に、こうした研究への参画と分野横断的な研究指導を通じて次代を担う若手研究者・専門家の育成を行う。</p> <p>(1) 国際都市再生研究センターの拡充: 既設の国際都市再生研究センターを改組拡充し、経験と実績に優れた海外の研究者や世界トップクラスの若手研究者を特任教授・特任助教として招聘配置し、関係教員・学生等との共同研究を進めると同時に、センターを核とする分野横断的な研究指導体制を確立し、研究の相乗的推進と若手研究者の育成を図る。また拠点形成活動の企画調整・評価推進について助言を得るため、当該分野に関し深い学識と経験を有する研究者等数名による国際アドバイザリー・ボードを設置する。</p> <p>(2) 分野横断的先端領域研究の展開: 従来、〈環境マネジメント/ストックマネジメント/社会情報マネジメント/統合計画デザイン〉の4研究部会に加え、新たな重点戦略課題群(当初4課題)に関する共同研究チームを設置し、関係教員・学生多数の参画による分野横断的共同研究を、さらに深化・展開する。</p> <p>(3) 国際共同研究等の実践を通じた国際研究ネットワークの拡大: 世界各都市の主要関係研究機関・都市自治体・NPO等と共同し、国際共同研究をさらに展開し、21世紀COEにより確立された国際研究ネットワークをアジア中心のものから全地球規模のものに拡大すると同時に、世界各都市の主要関係研究機関にCOE海外フェロー(連携協力研究者)を任命配置し、若手研究者の国内外での連携指導に従事していただく。また、事業期間の最終年度を目標に、世界の類似拠点と連携し、国際都市持続再生学会を創設する。</p> <p>(4) 知の体系化・公開・普及: 都市持続再生学テキストブック・シリーズの出版(英文・和文)を継続する。また研究成果の公開と国際研究ネットワークの活性化のため、ウェブサイトを通じた情報公開・交流を拡充する。また21COEの成果を受けて新設された社会人向け大学院教育プログラム「都市持続再生学コース」(修士課程)を拡充し、高度専門実務家養成型博士課程に発展させる。</p> <p>(5) 世界の各都市において都市空間の持続再生を推進・実践する若手研究者・専門家の育成: 都市空間の持続再生のためには、当該都市空間の多元性と固有性を理解し、多様な分野の専門家の能力を調整統合結集し、多様な文化・価値観を有する市民の要求に応えうる構想を提示し、合意を形成しつつ、構想を実現する必要がある。したがって、世界の都市空間の持続再生を実現するためには、多様な分野の専門家によるチームの活動を主導調整統合するチームリーダーとして活躍できる人材を多数育成する必要がある。 本拠点においては、上記の教育研究環境を基盤とし、具体的実践的国際的な共同研究への参画と、海外フェローを含む分野横断的国際的研究指導体制の下での研究の遂行、cSUR講義(英語)の受講、国際共同スタジオ・国際サマースクールの受講等を通じ、特定分野について高度な専門能力を有すると同時に、都市空間の持続再生に関わる広汎な学術分野と多様な文化に関し理解力と調整統合力を備えたチームリーダー型の人材を育成する。</p>	

機 関 名	東京大学
拠点のプログラム名称	都市空間の持続再生学の展開
<p>[採択理由]</p> <p>21世紀COEプログラム「都市空間の持続再生学の創出」での高い成果に基づいた拠点計画であり、大学の支援体制も確立されており、評価できる。</p> <p>人材育成面においては、人材育成のコンセプトが明確であり、国際的に活躍できる人材の育成についても期待できるが、博士後期課程のカリキュラムが明確でなく、教育プログラムにおいて3専攻それぞれの教育プログラムと本プログラムにおける教育プログラムとの区別も明確となっていない。</p> <p>研究活動面においては、事業推進担当者の研究活動は活発で、実績も十分であり、更なる展開として、諸課題に対する解決策の提言を図っており、評価できる。しかしながら、全体計画における各事業推進担当者の役割分担が明確になっておらず、個別研究の寄せ集めにならないよう、工夫・改善が求められる。</p>	